

■読みに困難のある子どもたちへの実践事例

読みに困難を感じる子どもの読書活動を意欲的にする取り組みについて

安来市立井尻小学校
木戸收子

活用の目的

マルチメディアDAISY図書を活用することで、読みに困難を感じている子どもに、本を読む楽しさを感じさせたり、書いてあることの感想を簡潔に書いたりすることができる力をつけていきたいと考え、取り組むことにしました。

活用のための準備

〈全校の子どもたちに知ってもらう〉

- 全校の子どもたちが関心をもち、どの子も安心して活用ができるように、各学級の図書館の学習の時間に、全員がマルチメディアDAISY図書を使用する機会を設けました。



マルチメディアDAISY図書を実際に体験する様子

- 全校朝礼で子どもたちに対して、さまざまな学習の方法（手立て）があることを伝え、必要な子どもが安心して取り組める雰囲気づくりを行いました。

〈実態調査を行う〉

- 読書や図書館利用についてのアンケートを年2回実施し、使用する前の読書への意識と年度末での意識の変化を知りたいと思います。

〈使用する方法を決める〉

- マルチメディアDAISY図書を使う時間、場所などについて決めておき、使いたい子どもは、事前に図書館司書に希望を伝えておいて、使用順番を調整しながら使用するようにしました。

活動の実際

〈対象〉

- 通常学級や特別支援学級に在籍していて、さまざまな理由で読みに困難を感じ、安心して読書にむかうことができない子どもを対象としました。

〈校内での活用場所〉

- 学校図書館、教室、パソコン教室



マルチメディアDAISY図書を使う子どもの様子

〈校内での環境整備〉

- 学校図書館内の一角にDAISYコーナーを設け、パソコン2台とiPad 1台が使用できるように設定しました。
- DAISYコーナーは、他の学校図書館を利用する子どもとは別の向きの机にし、集中しやすいようにしました。
- 集中して読書ができるように、すべてのパソコン、iPadにヘッドホンを取り付けました。
- マルチメディアDAISY図書の書籍版を他の本と分けて、手に取りやすい場所に配置しました。



学校図書館DAISYコーナー

〈校内での活用時間〉

- 学校司書のいる給食前の待ち時間
- 学校司書のいる業間や昼休みの時間
- 授業内容によっては、授業中にも活用する

〈活用の様子〉

1学期に全校の子どもたちに実際に使用させてみた後、学校図書館での使用を希望する子ども、担任が使用を勧める子どもを対象に利用者を募り、予約制にして学校司書がいる時間に使用するようにしました。本の貸し出しとは別に、マルチメディアDAISY図書で読んだ場合も、本を借りた冊数として記録するようにしました。

学校図書館では、借りた本を読んだ後は、感想をカードに記録し、本と一緒に返却することになっているので、マルチメディアDAISY図書を使って読んだ場合も、カードに感想を記録するようにしました。感想を書きにくい子どもに対しては、学校司書や司書教諭が思っていることや考えたことを会話しながら聞き出し、言葉にしてから書かせるなどの支援を行いました。

はじめはなかなか感想やあらすじを書けないままでいた子どもも、書く内容や文字などについて具体的に支援してもらうことで、少しずつ書くことへの抵抗が弱くなってきました。

〈Kさん（6年生）の様子について〉

Kさんは、文章を読むとき、読んでいるところがわからなくなって飛ばして読んでしまったり、文章の中の一部を見て、関係のない言葉を想像してそのまま読んでしまったりすることが多くありました。文章を見る際の眼球運動もあまりスムーズではなく、読書をしていても文字を追うのが面倒になるため、読書に意欲が湧かない様子が見られました。

しかし、マルチメディアDAISY図書の画面を見ながら、文字を目で追い、音声を聞きながら本を読んでいくことで、なかなか本の内容を理解できなかったのが、少しずつ言葉のまとまりを意識しながら読むことができるようになってきました。学習の内容についても、文章が充分理解できないために、理解を深めることが難しいことが多かったのが、マルチメディアDAISY図書で関連した本を読むことで、内容に迫ることができ、学習に積極的に関わることも増えてきました。

内容がわかることで、以前よりも自信をもって、学習活動に取り組めるようになってきています。感想を聞くと、「お話がよくわかる」「本で読むのより、わかりやすくていい」と話してくれました。文字をとらえ、文章の流れの中でどんな言葉が出てきているのか、少しずつ注意深く判断できるようになっ

てきていると思います。

また、感想を書く際、はじめのころは、なかなか書くことが思いつかないままに過ごすことが多かったのですが、感想や大事なところについての質問に答えることで、どんなことを書けばよいか、だんだんとわかるようになってきました。

自分で本を読むことへの意識が少しずつ上向きになってきたのは、マルチメディアDAISY図書を使用して、本の内容を深く感じ取ることができるようになってきているからではないかと思っています。

〈Sさん（3年生）の様子について〉

Sさんも、音読や読書に困難さを感じている子どもです。学級での音読に自信がもてず、文章の理解も深まらないので、学習への意欲も下がってしまっていました。また、読書も、文字を目で追うことができず、ページをパラパラとめくって、読んだことにして終わるという姿が多くありました。そのため、マルチメディアDAISY図書を使って、学級で、家庭で、音読の練習や学習に取り組みました。

自分だけが使っているのではなく、授業中の音読でも使ったり、他の友達もマルチメディアDAISY図書を使って読書している様子を見たりすることで、自分ももっと使ってみようという気持ち

ちが高まり、読書も少しずつ落ち着いて取り組めるようになってきました。

研究の評価（まとめ）

数人ずつで活動したことで、それぞれの子どもの実態に合わせた支援ができたと考えられます。読書や音読をする時、文字を目で追うことに困難を感じつまづいている子どもに対して、マルチメディアDAISY図書を使うことで、安心して読書を楽しむことができるようになってきたと思います。

読むことや書くことに対して抵抗があり、困難さを感じている子どもだけでなく、まず全校の子どもたちみんながマルチメディアDAISY図書を使ってみてどんなものかを知ることがとても有効であったと思います。知っていることで、マルチメディアDAISY図書を使って、あるいは自力で、「自分でもっと読めるようになりたい」と読書に取り組む子どもが増えてきたのではないかと思います。

今後へ向けて 成果と課題

本校では、読みに困難を感じる子どもに加え、低学年の子どもや、なかなか読書に親しめずにいる上級生の子どものにもマルチメディアDAISY図書は効

果的であったと思います。それぞれの実態に応じた支援ができ、落ち着いた環境での読書ができるからです。また、ビジョントレーニングが必要な子どもについても、マルチメディアDAISY図書を使う様子をとらえることで、より効果的に支援を行うことができるようになりました。

また、全校の子どもたちがまず使ってみることで、さまざまな子どもの様子、反応を知ることができ、その後の読書活動への活かし方を検討するきっかけにもなりました。

低学年のうちにしっかり本に親しむことができる経験を積ませておくことが、その後の読書生活を豊かにしていくためにとても大切ではないかと思います。読むことに困難を感じるから読まない、本を手にとらないのではなく、自分ができることを通してお話に繰り返し触れさせていくという経験を、マルチメディアDAISY図書はもたらしてくれると思います。

今後、朝読書などの短時間に読み終わられる読み物を「わいわい文庫」に整備していただけたらと思います。自分から読む意識づけに、マルチメディアDAISY図書は大変効果的であると思います。